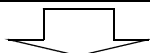


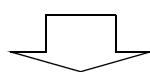
評価領域	学習指導
------	------

重点目標	地域の資源や育成力を生かした教育活動の実施	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から2か年計画で「自分で考え、意欲をもって物事に向かう力を育てる授業づくり～地域の効果的な活用を通して～」を主題とした研究に取り組んでいる。 ・1年目の研究で、地域を授業に取り入れることで、学習に対する児童生徒の興味・関心を高め、「意欲をもって物事に向かう力」を向上させ、学びを深めることにつながった。一方で、「考える力」の育成について、基礎的な知識・技能を実際に使うこと、校内外で発揮することや、地域を活用し授業づくりをすることは単発になりがちであり、地域を効果的に活用するために単元づくりの工夫が必要であることが課題として挙げられた。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を活用した学習において、児童生徒が自分で考えて意欲的に学習に取り組む力を育成する。 ・学校評価領域「学習指導」の平均評価を3.5点（満点4.0点）以上にする。 	
目標達成のための方策	<p>2年目となる今年度は、地域を活用するよさを生かしながら、地域を活用した単元において「考える力」の一層の育成を図るために、身に付けた力の発揮を意識した単元づくりと主体的に学習活動に取り組める手立ての工夫に取り組んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域を活用した学習において「発揮したい力」の設定 2 年間指導計画検討会の実施 3 「単元構想シート」を活用した、地域を授業に取り入れた授業づくり 	D
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域を活用した学習において「発揮したい力」の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の取組の成果と今年度の各学部研究テーマに基づき、地域を活用した学習において「発揮したい力」を学部ごとに設定し、授業づくりの観点として生かした。 2 年間指導計画検討会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・全校授業研究会の提示授業の学習グループについて「年間指導計画を語る会」を実施した（年2回）。 3 「単元構想シート」を活用した、地域を授業に取り入れた授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育課指導主事、総合教育センター指導主事、秋田大学教授を指導助言者とした全校授業研究会を実施した。 ・全職員が日々研で、地域を活用した授業を行った。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を授業に取り入れることで児童生徒は学習内容への興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組んだ。 ・年間指導計画の内容を検討することで、繰り返しの単元設定、発展や変化をもたせた単元設定ができ、児童生徒がもっている力を生かして活動する姿につながった。 ・各学習グループで「単元構想シート」を活用し、育成を目指す資質・能力を踏まえた地域を活用した授業づくりを行った。全校授 	

	<p>業研究会や「日々研」で出された改善案を実行することにより、自分で考え取り組む姿が見られるなどの児童生徒のよい変容に結び付いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分で考え、意欲をもって物事に向かう力」を育成するための効果的な手立てについて職員間で共通理解できるよう、手立てを整理しているところである。 ・学校評価領域「学習指導」の平均評価点が3.5点（年度末評価）であった。 	
--	---	--



自己評価	<p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発揮したい力」を設定し、意図的に地域を題材に授業を展開したことで、各学部の児童生徒の実態に応じた学んだことを発揮しようとする姿が見られたこと。 ・職員においては、身に付けた力の発揮を意識した単元づくりと主体的に学習活動に取り組める手立ての工夫を検討、実践することができたこと。 ・保護者による「学習指導」に係る学校評価の平均評価点が3.6点（年度末評価：満点4.0点）であったこと。 	C
(評価) A		



評価基準 A：具体的な活動がなされて目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者 評価と意見	<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員による学校評価領域「授業参観の様子」「教育プランの取組」では、平均評価が4.0点(満点4.0)の評価を得た。 ・「学校評議員会」において、学校経営の重点「能力の伸長」「特色ある教育活動の展開」について、地域に密着した教育活動が充実しているとの評価を得た。 	C
(評価) A		

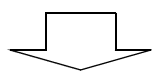


自己評価及び 学校関係者評価に基づいた 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間に渡って取り組んできた本研究の成果を踏まえ、次年度以降も地域の効果的な活用を基盤としながら授業づくりを行っていく。 	A
-------------------------------	---	---

重点目標	児童生徒の実態に応じた防災教育等の充実	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・軽度の知的障害のある児童生徒から、医療的ケアを要し肢体不自由を併せ有する児童生徒まで、実態の幅が広い。 ・高等部生徒の一部が、公共交通機関による登下校を行っている。これら生徒は、携帯電話を所持して登下校している。 ・児童生徒の実態等を踏まえ、定期的な避難訓練等や登下校指導、計画的に防犯教室や情報モラル教室などを実施している。 ・児童生徒の多様な実態に応じた防災等対応について、不断の見直しが必要である。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた避難訓練等の実施や、危機管理マニュアルの見直しを通して児童生徒及び職員の防災等の意識の向上を図り、有事に対応できる体制を整える。 ・学校評価領域「安全管理」の平均評価を3.5点（満点4.0点）以上にする。 	
目標達成のための方策	<p>危機管理委員会での安全管理に係る課題整理や防災教育年間指導計画に則り次を実施し、防災等の意識の向上等につなげる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 危機管理マニュアルの見直し 2 児童生徒自身の意識向上に係る取組 <ol style="list-style-type: none"> (1) 交通安全教室、防犯教室、情報モラル教室の開催 (2) シェイクアウト訓練の定期実施 (3) 「非常時の生活体験」の実施 3 職員の意識向上に係る取組 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な災害等を想定した避難訓練等の実施 (2) 実際想定 of 緊急時対応訓練の実施 (3) 不審者対応訓練の実施 4 安心・安全な環境づくりに係る取組 <ol style="list-style-type: none"> (1) 登下校指導や下校巡回指導の実施 (2) 危機管理委員等による施設設備等の点検の実施 	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 危機管理マニュアルの見直し <ul style="list-style-type: none"> ・各種訓練等を通して、避難経路や車椅子を利用する児童生徒の避難方法を見直した。 ・熱中症や熊対策についてのマニュアルを作成・見直しをした。 2 児童生徒自身の意識向上に係る取組 <ol style="list-style-type: none"> (1) 防犯教室、情報モラル教室の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室を1回（1学期）防犯教室を1回（1学期）、情報モラル教室を2回（年度当初、2学期）開催した。いずれも児童生徒の実態に応じて、グループ別の実施した。 (2) シェイクアウト訓練の定期実施 <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し、月1回のペースで実施した。授業中、休み時間など様々な場面で実施した。 (3) 「非常時の生活体験」の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・岩城少年自然の家の出前講座を活用し、小学部6年生、中学部1年生、高等部1年生を対象に実施した。 	D

	<p>3 職員の意識向上に係る取組</p> <p>(1) 多様な災害等を想定した避難訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震、火災、土砂崩れ等、様々な被災を想定して避難訓練を実施した（年間4回）。また、保護者への引き渡しやメール連絡の訓練も併せて実施した。 <p>(2) 実際想定 of 緊急時対応訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練時に併せて、119番通報訓練を行った。また、医療的ケア時の緊急対応訓練として、実際に救急車の要請を行った。 <p>(3) 不審者対応訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 警察署から講師を招き、不審者侵入を想定した訓練を実施した。不審者対応の様子を全職員で動画を使って共有しながらの講話も実施した。 <p>4 安心・安全な環境づくりに係る取組</p> <p>(1) 登下校指導や下校巡回指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 登下校指導は学期始め等に、下校巡回指導は年間を通して実施し、状況を全職員で共有した。 <p>(2) 危機管理委員等による施設設備等の点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学期に校舎内及び構地内の点検を実施し、校内設備配置を改善等したり、構地内危険箇所（裏山土砂等）について県と共有したりした。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態等に応じた多様な想定による避難訓練等やシェイクアウト訓練などを通し、児童生徒自ら身を守る行動が定着したり、職員が有事の実際場面を想定した臨機応変な対応をしたりするようになり、学校全体での防災意識の向上が見られた。 登下校等指導や施設設備の点検等を通して安心・安全な環境づくりが推進され、大きな事故のない年度とすることができた。 学校評価領域「安全管理」の平均評価点が3.7点（年度末評価）であった。 	

自己評価	(根拠)	C
(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒自身の防災意識の向上が見られたこと。 危機管理マニュアルの見直しが図られ、より实际的で実態に応じた危機管理体制の整備が進んだこと。 保護者による「安全管理」に係る学校評価の平均評価点が3.7点（年度末評価：満点4.0点）であったこと。 	



評価基準

A：具体的な活動がなされて目標を達成できた

B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない

C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(意見)	C
(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員による学校評価領域「学校経営方針の達成度」「教育プランの取組」では、平均評価が4.0点(満点4.0)の評価を得た。 「学校評議員会」において、学校経営の重点「安心と安全」「能力の伸長」「特色ある教育活動の展開」について、肯定的な意見を多数得た。 	
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育の実践や危機管理体制の見直しに基づく成果や知見を基に、地域における防災体制の充実を図っていく。 	A